

「四季・植物」 2 蓮

学名 *Nelumbo nucifera* Geml.

ハス科の多年生水草

実の形が蜂の巣に似ているため、古名をハチス（蜂巣）といい、略されてハスと言われるようになった。

郷土資料から見た蓮のあれこれ

毎年8月11日、西本町1丁目に花市が立つ。これは盆に先祖に供えるための花を商う市である。「柏崎では昔から、溝萩^(みぞはぎ)、糸すゝぎ^(ききょう)、桔梗、女郎花、千日香（方言だんごばな）、えぞ菊（方言おらんだ菊）蓮の花をかならず供えることにしております」（「柏崎歳時記」）とあるように盆に蓮の花は欠かせない。

花市の蓮は昔は佐藤ガ池が産地で、村の若者が胸まで水につかりながら採ったという。

蓮は仏教と関わりの深い花で、極楽浄土に咲く花とされ、仏陀が生まれるときにはそれを告げて花開いたと言われている。

明治44年に比角の越後線付近で始まった蓮根の栽培は、耕作面積7町歩余り。大正4年の記録では「施肥一反歩8円・一坪平均一貫匁の収穫・価格一坪分米価の3倍」（柏崎市史資料集）」とある。昭和10年には蓮の権威^{おおが いちろう}大賀一郎博士に「全国屈指の良質」と折紙をつけられたほどであった。

参考資料

「柏崎市史資料集 近現代編」	柏崎市史編さん委員会編	1985	「図説花と樹の大辞典」	植物文化研究会・雅麗編	1996
「草木花歳時記 夏」	朝日新聞社発行	1997	「比角村史誌」	三井田忠著	1971
「俳句の花」	青柳志解樹著	1997	「こどものための柏崎物語」	笹川芳三著	1960
「日本大百科全書」	小学館発行	1994	「柏崎歳時記」	山田良平著	1957